研究彙報（昭和59年1月〜同12月）

●特別展覧会（○印は共催）

○インド古代彫刻展

会期　五月二十二日(火)—七月八日(日)
会場　京都国立博物館・本館
主催　京都国立博物館・日本経済新聞社

紀元前三世紀ごろから仏教彫刻をはじめ、ヒンドゥー教の神々、ジャイナ教の祖師像など名品七十余点を選んで構成した。

近世日本の絵画—京都画派の活躍—

会期　十月九日(火)—十一月十一日(日)
会場　京都国立博物館・本館
主催　京都国立博物館

江戸時代を通じて常に画壇をリードし、多様な実りをあげた京都の絵画を約八十件選んで展示。

●特別陳列（▽印は毎年の定例的な陳列）

京都の経塚遺宝　一月四日(水)—二月二十六日(日)
新館二号室　担当・難波田　徹
洛北地方の鞍馬寺と花背別所経塚の経塚遺物を中心に展示。

▽鉄斎　一月四日(水)—二月五日(日)
新館九号室　担当・金沢　弘
鉄斎の作品の中から、普陀落山や桃源境、あるいは蓬萊山など山水図を描いた作品を集めて展示。

海北友松とその周辺　一月四日(水)—一月二十九日(日)
新館十一—十三号室　担当・狩野博幸
代表作である建仁寺大方丈障壁画を中心に、海北友松という画人が総合的に把握できるように配慮、展示した。

▽高台寺蒔絵と南蛮漆器　一月四日(水)—一月二十九日(日)
新館十五・十七号室　担当・灰野昭郎
近世初頭を彩どった蒔絵と螺鈿の調度品を展示。

京洛寺院の新資料　二月二日(木)—二月二十六日(日)
新館十三・十七号室
洛南伏見地区の寺院、および壬生寺・檀王法林寺において実施した調査をもとに、新しく見出された資料を展示。

▽人形　三月一日(木)—四月八日(日)
新館十四・十七号室　担当・切畑　健
館蔵・寄託のなかから代表的な各種の人形を展示。

古絵図の世界　七月二十五日(水)—九月二日(日)
新館十三・十七号室　担当・難波田徹・下坂　守
今回は古絵図のなかから、主に荘園図を取り上げて展示。

▽新収品展　八月一日(水)—八月二十六日(日)
本館・南半館
今回はとくに国が購入し、文化庁が保管していた作品の中から当館に移管されたものを中心にして展示。

高僧伝絵　十月三日(水)—十一月十一日(日)
新館八—十・十七号室　担当・若杉準治
鎌倉末期に競って制作された、各宗派の祖師や高僧の伝記を描いた作品を中心にして展示。

円山派の衣裳絵　十月九日(火)—十一月十一日(日)
新館十三・十四号室　担当・切畑　健
円山派の絵師による染織の下絵や小袖、振袖などを展示。

横谷宗珉の刀装具　十月九日(火)—十一月十一日(日)
新館十六号室　担当・稲田和彦
横谷宗珉の作品の中から、小柄・笄・目貫などを展示。

中国古代の俑—館蔵品を中心に—
十一月十五日(木)—昭和六十年三月十日(日)
新館四号室　担当・河原正彦
館蔵品を主として、漢代と唐代の陶俑を展示。

●出版刊行

『京都国立博物館蔵品図版目録　仏教彫刻篇』　京都国立博物館　昭和五十九年三月　担当・伊東史朗

昭和五十八年三月三十一日現在で当館が保管している仏教関係の彫刻五十三件を収録。Ｂ４版、収録図版一一六図、頒価二万八千円。

『花鳥』　京都国立博物館　昭和五十九年三月

昭和五十七年度特別展覧会「花鳥の美―絵画と意匠―」に出品の作品を中心にした図録で、論文八篇、図版解説、英文概説・目録を収める。Ｂ４版、図版原色七十二図、単色一四三図、頒価三万三千円

『京都国立博物館　学叢』　第六号　京都国立博物館　昭和五十九年三月

京都国立博物館職員による研究紀要。論文三篇、作品研究二篇、資料紹介一篇、修理報告四篇、研究彙報・昭和五十八年館職員執筆物一覧・英文概要などを収録。Ａ４版、図版原色六図、単色七十六図、頒価三千円。

『古絵図の世界』　特別陳列目録　京都国立博物館　昭和五十九年七月

昭和五十九年七月二十五日(水)から九月二日(日)までを会期とした特別陳列「古絵図の世界」の解説付き総目録。Ａ４版、総頁数七十二頁、図版原色一図、単色五十六図、頒価八百円。

『研究発表と座談会―ボストン美術館の仏画と絵巻』　仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第十一冊　昭和五十九年八月

昭和五十八年六月六日に行われたシンポジウムの要約。Ａ４版、本文二七頁、単色図版十三頁、頒価千円。

『近世日本の絵画―京都画派の活躍―』　特別展覧会目録　京都国立博物館　昭和五十九年十月

昭和五十九年十月五日(火)から十一月十四日(日)までを会期とする特別展覧会「近世日本の絵画―京都画派の活躍―」の概説付き総目録。Ｂ５版、総頁数一四三頁、収録図版原色六図、単色一三五図、頒価千円。

『高僧伝絵』　特別陳列目録　京都国立博物館　昭和五十九年十月

昭和五十九年十月三日(水)から十一月十一日(日)までを会期とした特別陳列「高僧伝絵」の解説付き総目録。変型25×24版、総頁数七十五頁、図版原色六図、単色七十図、頒価千円。

●シンポジウム

研究発表と座談会**「仏教美術における「インド風」について―彫刻を中心に―」**

主催　仏教美術研究上野記念財団助成研究会（代表者　林屋辰三郎）

期日　七月二日(月)

会場　京都国立博物館

参加者　一一五名

研究発表　インド・ガンダーラ（肥塚　隆）・アフガニスタン　中央アジア（[redacted]）・東南アジア（高田　修）・中国　朝鮮（松原三郎）・日本（井上　正）

座談会（司会　清水善三）

●国内における調査研究

宸翰様書風の成立過程　担当　下坂　守

京都府下の社寺調査

●海外における調査研究および出張

林屋辰三郎　昭和五十九年一月二十日～一月二十九日（行先　インド）
昭和五十九年度特別展覧会「インド古代彫刻展」開催に関する事前調査

井上　正　昭和五十九年一月二十日～一月二十九日（行先　インド）
昭和五十九年度特別展覧会「インド古代彫刻展」開催に関する事前調査

中村賢二郎　昭和五十九年三月二十日～三月二十九日（行先　中国）
特別展覧会「中国陶俑の美」展の事前調査及び中国内博物館事情調査

伊東史朗　昭和五十九年三月二十日～三月二十九日（行先　中国）
特別展覧会「中国陶俑の美」展の事前調査及び中国内博物館事情調査

西上　実　昭和五十九年三月二十日～三月二十九日（行先　中国）
特別展覧会「中国陶俑の美」展の事前調査及び中国内博物館事情調査

西上　実　昭和五十九年五月七日～五月二十九日（行先　中国）
黄山画派学術討論会出席

八賀　晋　昭和五十九年八月十六日～八月二十五日（行先　中国）
中華人民共和国故宮博物院内武英殿で陶俑の調査研究

伊東史朗　昭和五十九年九月二日～九月八日（行先　米国）
行道面及び乾漆像の調査

灰野昭郎　昭和五十九年十月一日〜十一月三十日（行先　韓国・英国ほか）
極東における漆工芸とその西欧への伝播の様相についての調査・研究（昭和五十九年度文部省在外研究員）
切畑　健　昭和五十九年十一月十五日〜十一月十九日（行先　パラオ共和国）
昭和六十年度特別展覧会「日本の染織」の事前調査